

『第6回(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会』の報告

1月19日(土)午前、新宿歴史博物館において、第6回検討会を開催しました。特別委員を除く26名の検討委員のうち21名の参加により開催しました。

基礎調査以降の研究成果について 石崎委員

基礎調査に携わった石崎委員より、基礎調査以降に新たに判明した情報等について、講演いただきました。主な内容は以下のとおりです。



- ・明治末年頃から、漱石山房に出入りしていた経師屋・栗山弘三郎「夏目漱石先生のおもいで」には、玄関や客間・書斎に関する記述がある。
- ・玄関の奥には、三畳の畳敷きの廊下があった。
- ・客間の天井や壁の壁紙の文様は、「銀杏鶴文様が印刷された白い紙張り」であった。

- ・客間に置かれた六曲一双の屏風に記載されていたのは、「老樹不知歳時 名園別有天地非人間」ではないか。

事業計画・展示計画のまとめについて

前回のグループ討議での意見をふまえて作成した事業活動計画(案)について、新宿区より説明を行い、質疑応答、意見交換を行いました。

主な意見としては、漱石とまちづくりについて調査研究を行う、もう少し特徴のある計画にすべきである、などが挙げられました。

新宿歴史博物館の収蔵部門見学

事務局・北見学芸員の案内により、搬出入口、資料用大型エレベータ、収蔵庫前室、収蔵庫、閲覧室などを見学しました。

施設整備計画の検討

新宿区より施設整備計画(案)を提出し、その具体化に向けたイメージについて、4つのグループに分かれて自由な議論を行いました。

グループのメンバーは、それぞれ持ち寄った写真について、どんな点が気に入っているか、(仮称)「漱石山房」記念館において参考になるかなどを語り、各テーブルを担当するサブファシリテーターが、キーワードをふせんに記入しながら、写真に貼り付けていきます。メンバー全員で、出された意見をグループピングしながら意見を取りまとめました。



〈施設整備イメージに関する主な意見〉

①建物外観

- ・明治時代をイメージさせる建築にする。
- ・建物自体はシンプルなデザインとし、外部からも漱石山房を見られるようにする。

②諸室構成・建物内部

- ・内装は、木を使った落ち着いたイメージ。
- ・館内は、明治時代や大正ロマンのイメージ。
- ・寄贈を期待し、広い収蔵庫を備える。
- ・閲覧室や映像コーナーを備える。
- ・漱石山房は、外光が入る明るい空間に配置したい。
- ・レトロなデザインで、近隣住民が通いたくなるカフェとし、本が読めるようにしたい。

③庭

- ・道路から建物に至るアプローチに漱石山房にあったバショウの木を植え、シンボルとする。
- ・漱石山房にあった草花や樹木により、庭園を再現する。

委員の感想・意見

討議終了後、グループ毎に発表を行い、質疑応答ののち、学識経験者より講評をいただきました。

・漱石は、庭や自然への関心が強かったのではないかなどからこそ、漢詩や文人画を描いている。こうしたイメージを取り込んでいきたい。

・建築外観は、周辺の住宅地に調和したものとす。また、木造家屋である漱石山房が再現されるので、それを取り囲む箱としての建築は一体化しないようなデザインとすべき。

・漱石山房を上から眺められる仕掛けがほしい。

・漱石が生きた「明治」という時代をテーマにし、自然に人が集まってくるような、本物の空間ができるとうい。

・キーワードはオープン。光、外からの空気感が大事。『硝子戸の中』という著作があるように、ガラスを効果的に使ったオープンな建築にすべき。

・若い人が勉強できる空間にしてほしい。そのためには、書架をできる限りオープンにして、気軽に手に取って読めるようにしてほしい。